



笠間市友部小学校区中央地区 敬老会

令和元年9月16日、友部小学校区中央地区の敬老会が、地域交流センターともべて開催されました。赤尾杉友一実行委員長の開式のことばに続き、山口伸樹市長の主催者

令和元年 百歳目指して頑張ろう 敬老会 笑って歌って元気よく



発行者 笠間市社協中央支部
編集 中央支部広報委員会
印刷 (有)シーエス



山口市長より米寿祝状贈呈 米寿代表者 藤枝すゑ様

挨拶、常井洋治県議・村上典男県議・坂本奈央子市議の祝辞をいただきました。「人間の脳は90歳まで発達する、心身ともに健康寿命を延ばし明るく元気に人生百歳時代を目指しましょう」と励ましの言葉を頂きました。
中央支部の今年の敬老会該当者は539名で、117名が出席されました。米寿を迎えられた29名が披露され、笠間市から祝い状と記念品が



アトラクション アコーディオン漫謡 岩田百郎

贈呈され、藤枝すゑさんが代表して受け取りました。
アトラクションは、最初に「魏家こうじ」さんの落語でした。演目は「猫の皿」です。猫が使っている立派な絵高麗の梅鉢の皿を手に入れたがっている、骨董品で生業を立てている男と茶店の主人の間答話に大笑いでした。魏家さんは旧笠間市の出身で、日テレ学院門下生であります。
続いて、岩田百郎さんのアコーディオン漫謡です。昨年に引き続き東京から出演です。今年も日立市出身の作曲家である、吉田正の名曲



アトラクション 落語 魏家こうじ

「街のサンドイッチマン」「有楽町で逢いましよう」「美しい十代」「東京ナイトクラブ」「おまえに」「いつでも夢を」を岩田さんの軽妙なトークを交えながら全員で合唱し、いつまでも余韻の残る楽しい敬老会でした。
なお、笠間市で今年米寿を迎えられた方は426名で、百歳になられた方が22名、百一歳以上の高齢者は46名（男5名、女41名）で最高齢は百七歳です。
ご来賓、招待客の皆さんありがとうございました。実行委員の皆様ご苦労さまでした。

楽しかった敬老会

鈴木 征夫

昨年の敬老会までは、私は支部役員として、招待者を接待する立場にありました。しかし今年には招待される側に立場が変わりましたので、新たな気持ちで敬老会に出席させていただきました。

早めに会場に着くと受付には既に民生委員の皆様が招待者を待っていて案内を受けました。三々五々参加者が集まり、開式の時間には、会場は、ほぼ満席となり顔見知りの方々それぞれ挨拶を交わしていました。

式典は進行し来賓の方々から、お祝いの言葉や健康と長寿の話し等、希望と元気をいただきました。

アトラクションは、落語とアコーディオン漫謡でした。アコーディオン漫謡は、昨年に続いて岩田百郎さん。今年も、吉田正の名曲の数々を、アコーディオンの調べにのせて全員で合唱いたしました。皆さん大きな声で、とても楽しそうでした。久しぶりに若い気持ちに戻った楽しい一時でした。

敬老会の開催に携わられた多くの関係者に感謝お礼申し上げます。

盛況だった福祉バザー

10月19日（土）のふるさとまつりは、明け方の強い雨で開催を心配しておりましたが、9時の開店時間頃には小雨となり、無事に開催されました。お客様の出足も少なめではありませんでしたが、それでも小雨の中で列をつくって待つっており、開店と同時に各売り場は人だかりとなり盛況でした。

昼近くには雨も上がり、客足も途切れることなく、大勢のお客様が赤飯や豚汁を買い求めていました。午後3時を過ぎた頃には、各売り場とも大部分が売れた状態となり閉店といたしました。



売上総額は34万4千円余りとなり、当初の予想を超える額でした。バザー用品を提供していただいた方、雨の中お買い求めいただいた方、搬入・値付け・調理・販売と、バザーに係わった関係者の方々に厚く御礼申し上げます。収益金は、支部活動の財源に活用させていただきます。

高齢者親善交流会

10月4日（金）、朝まで雨が降っていましたので、予定していましたがランドゴルフと輪投げは中止になってしまいました。そこで、参加者55名は、地域福祉センターのB館に11時に集合しました。全員で昼食をとり、その後、ビンゴゲームをして景品をもらい、楽しいひとときを過ごすことができました。



さて、今年度から、最高齢者賞の代わりに特別賞になりました。今年度は、昭和7年3月生まれ以前の方が該当者になります。来年度からの特別賞は、米寿の方だけになります。特別賞を受賞された方は、次の通りです。

- 大平 初男さん 打越 忠男さん
- 神永 ますさん 久野 正雄さん
- 丹 順道さん 中塚 孝七さん
- 山田きよ子さん 四ツ倉みゆきさん



習いました。無理に口の中に手を入れて異物を取ったり、掃除機で異物を取ったりすることがないようにしてくださいとご指導をいただきました。



女性部研修

「みんなで話し合おう」をテーマに今年の女性部交流会が催された。11月6日（水）、会場は地域福祉センター研修室。

参加者は、28人。部員3人役員1人の4人がグループとなり、8つのグループがそれぞれ話し合いを進めた。進行役は社



新鮮味を感じた交流会

協の矢口さん。始める前にグループ内で自己紹介、進行係、記録係を決めた。話し合いは5つの項目について、一定のルールのもとに進められた。



女性部の活動・取り組みに対する希望・女性部が出来ること・支部全体が出来ることなど

大沢中3区 中澤 まさ

について意見を出し合い、記録係がまとめ全体の場で発表し合った。誰もが話し人の意見を受け入れ相互理解を深められたこと、同時に他地区の活動状況を知ることが出来た。この交流会で得たものは大きかった。

例年の交流会は企業や名所をバスで訪れるものであったが、今年は部員同志が心を寄せ合い話し合うという初めての試みであった。昼食はその場で弁当を食べ、最後のお楽しみはビンゴゲーム。商品の鉢植えの花をかかえる解散時のみんなの笑顔が心に残った。

普通救命講習会

11月10日（日）21名が参加しました。消防署から2名、3名のボランティアの方が来て、講習の内容の補助をしてくれました。まず、胸骨圧迫、人工呼吸をそれぞれ行いました。次に、心肺蘇生の手順を最初から胸骨圧迫をする前までやりました。その後、呼吸確認、AEDの使用方を習い、心肺蘇生の仕方を最後まで行いました。心肺停止のとき、応急措置で大切なことは胸骨圧迫を続けて行うことだそうです。

最後に、気道遺物の除去について、腹部突き上げ法と背部叩打法を

あとがき

四月に新米広報委員となり、また女性部にも加えて頂いて、研修会に参加したり福祉バザーのお手伝いをしたりしましたが、皆さん本当に楽しそうに参加されているので驚きました。この様な活動が生活の一部にあるのは、幸せなことと思います。さて暦の上ではもう冬、「中央支部だより」第116号をお届け致します。ぜひ目を通して支部の活動へのご理解とご協力をよろしくお願ひ致します。

（中村）